

# 生活環境学部 心身健康学科

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

## 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

### 【学位授与の前提となる教育理念】

こころと身体の健康と人間を取り巻く環境との相互作用についての総合的な知識や技能を身につけ、健康や生活のあり方について考え、よりよい生き方や環境のあり方を提案することにより社会に貢献できる人材を育成します。

### 【身につけるべき「資質・能力」】

- ・こころと身体の健康について、総合的な知識を身につけている。
- ・専門分野での知識、科学的・論理的思考と方法論を身につけ、実践できる能力を身につけている。

### 【学位授与の形式的要件】

上記の資質を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を習得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで卒業論文の審査に合格した学生に学士の学位を授与します。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### 【基本的なカリキュラム構造】

本学科では、こころと身体の健康に関する内容を幅広く学習した後に専門性を高めるために、1-2学年ではコース分けを行わず、主に専門基礎科目を学びます。基礎力を高めるために幅広い分野の専門基礎科目が開講され、偏りのない履修をするためのルールが作られています。3 学年以上では、生活健康学、スポーツ健康科学、臨床心理学のいずれかのコースに所属し、所属したコースで開講される学科専門応用科目を主に学び、専門性を高めます。また、各コースで卒業論文作成に向けて研究指導、執筆指導を行います。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

### 【教育の内容と方法】

1-2 学年では、こころと身体の健康に関する内容を幅広く学び基礎力を高めるため、幅広い分野の専門基礎科目が開講されています。履修の分野が偏らないように、それぞれの分野の履修科目数が決められています。また、複数の分野にまたがる内容の科目は、ブリッジ科目として設定してあります。3 学年以上では、各コースで開講されているより専門性の高い講義、演習、実験・実習を学び専門性を高めます。また、各コースは卒業論文作成に向けて研究指導、執筆指導を行います。

#### 【学習成果の評価の仕方】

授業形態に応じて、授業毎に設定された評価方法で評価を行います。評価の方法についてはシラバスに明示してあります。

### 生活健康学コースカリキュラム・ポリシー

#### 【基本的なカリキュラム構造】

生活健康学コースでは、生活環境、生活習慣と生体機能の相互作用に関する内容の講義、演習、実験・実習を開講し、専門性を高めます。コースの必修科目が設定され、生活健康学関連の研究分野について深く学びます。また、卒業論文作成に向けて、研究指導、執筆指導を行いません。

#### 【教育の内容と方法】

生活健康学コースでは、生理学、神経科学、人間工学、生化学などを基盤とし、生活環境や生活習慣と健康との関連に関する内容について講義、演習、実験・実習を行いません。実験・実習を通して、講義で学んだ内容の理解が深まるような授業内容になっています。

#### 【学習成果の評価の仕方】

授業形態に応じて、授業毎に設定された評価方法で評価を行います。評価の方法についてはシラバスに明示してあります。

### スポーツ健康科学コースカリキュラム・ポリシー

#### 【基本的なカリキュラム構造】

スポーツ健康科学コースでは、体育学・スポーツ科学に関する内容の講義、演習、実験・実習を開講し、専門性を高めます。コースの必修科目が設定され、体育学・スポーツ科学関連の研究分野について深く学びます。また、卒業論文作成に向けて、研究指導、執筆指導を行います。

#### 【教育の内容と方法】

スポーツ健康科学コースでは、学際的な基礎知識・専門的知識及び実践的能力を基盤とし、体育学・スポーツ科学に関する内容について講義、演習、実験・実習を行います。実験・実習を通して、講義で学んだ内容の理解が深まるような授業内容になっています。

#### 【学習成果の評価の仕方】

授業形態に応じて、授業毎に設定された評価方法で評価を行います。評価の方法についてはシラバスに明示してあります。

### 臨床心理学コースカリキュラム・ポリシー

#### 【基本的なカリキュラム構造】

1-2 学年で培った基礎的な知識をベースにして、講義や実習により、臨床領域をはじめとした人間の行動やこころのメカニズムを研究するための心理学的アプローチ法を学び、こころの問題を持つ人々への援助といった実践領域で専門性を活用・応用する方法を理解します。さらに少人数のゼミなどを通じて、研究方法やプレゼンテーション能力も身につけます。

### 【教育の内容と方法】

単に知識を身につけるだけではなく、それらの実践的な応用という観点から教育を行います。そのため、現実の問題について客観的に把握し、適切に対処していくための観察力やコミュニケーション力といった力も伸ばすようにしています。

### 【学習成果の評価の仕方】

授業形態に応じて、授業毎に設定された評価方法で評価を行います。評価の方法についてはシラバスに明示してあります。

## 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

### 【教育理念】

心身健康学科は、心と身体の健康と人間を取り巻く環境との相互作用についての総合的な知識や技能を身につけ、よりよい心と身体の健康と生活環境を提案することにより社会に貢献できる人材の育成をはかることを目指しています。教育内容は、心と身体の健康に関する内容を幅広く学び基礎力を高めるため、1-2年次では健康に関連する多彩な専門基礎科目を学ぶとともに、生活環境学の総合的教育という学部理念に即して、つねに生活者の視点を失わないことも重視し、生活環境学に関する科目の履修を推奨しています。3年次以上では、生活健康学コース、スポーツ健康科学コース、臨床心理学コースのいずれかのコースに所属し、より専門性の高い講義、演習、実験・実習を履修します。心身健康学科は、各コースの専門性を高めるだけでなく、他コースの専門科目を履修することを推奨し、領域横断的に人々の健康について専門性を高め、さらにグローバルな視野をもって問題解決をはかる人材を育成したいと考えています。

### 【求める学生像】

心身健康学科では、次のような資質および意欲をもつ学生を求めます。

- (1) 健康に対する幅広い関心と、文理を問わず主体的に学習するための基礎的学力をもつ人
- (2) 心と身体の健康に関する諸問題を解決するために新たな認識・知識を獲得することに意欲的な人
- (3) 生活環境や社会環境、ならびに生活習慣と心身の健康について学んだ専門知識で社会貢献を目指す人

### 【入学者選抜の基本方針】

#### 一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および心身健康学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、可否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科7科目もしくは6教科8科目※で、「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と、国語、数学、および理科から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

## 一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト（一般選抜前期日程と同じ科目）※と、個別学力検査として面接を実施し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

## 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト（一般選抜前期日程と同じ科目）※と、面接により、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに心身健康学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

## 総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考（書類選考）と第2次選考（プレゼンテーションおよび質疑応答）によって合否を判断します。第1次選考は、調査書、志望理由書、および小論文（3つの課題の中から1つ選択）を対象とします。第2次選考は、プレゼンテーション（第1次選考で選択しなかった課題から1つ選択）と質疑応答により総合的に評価します。

## 高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校を含む対象校※において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

## 私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績（日本語、理科、数学、または日本語、総合科目、数学）、TOEFLの成績と、面接により、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに心身健康学に対する興味関心などにより評価します。

## 第3年次編入学入試

第3年次編入学入試では、筆記試験（英語、小論文）と、口述試験により、合否を判定します。心身健康学科は第3年次にコース配属になるため、小論文と口述試験はコース別を実施され、合否判定はコース別になります。英語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、各コースの勉学・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、各コースにおける適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書なども参考にし、総合的に評価します。

※令和7年度入学者選抜以降における実施教科・科目（大学入学共通テスト利用教科・科目及び個別学力検査の出題教科・科目等）は、別途公表した教科・科目の内容となります。

※※対象校については本学ホームページ「学部入試（学生募集等）」に別掲